

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム やわら
訪問調査日	平成 20 年 1 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム やわら
所在地	鹿児島県曾於市末吉町二之方5232-8 (電話) 0986-76-3727

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年1月20日	評価確定日	平成20年2月26日

【情報提供票より】(20年 1月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14人, 非常勤 3人 常勤換算 16.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建て, 1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(1月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	高原病院 斉藤歯科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地にゆったりと建てられた施設である。ホームの中も静かにゆっくりと時間が過ぎていくかのように、利用者がそれぞれの思いのままに動き、職員はこやかに見守っている。全盲の利用者に他の利用者たちが手を差しのべ職員と一緒に支え合っている。開所して3年足らずであるが4人の方々の看取りをされたことは、家族の信頼・職員のチームワーク・努力が伺えるグループホームである。今後、行政や地域との連携を強くすることで、サービスの向上がみられることを期待したい。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価についてミーティングで取り上げて話し合っているが、改善点について継続して話し合いがなされていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングのときに、職員で話し合い自己評価を作り上げている。自己評価の取り組み状況を記録に残すことを望みます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	6ヶ月に一回開催し、事業所の報告、認知症の勉強会にとどまっている。幅広い立場の人が参加する会議とし、2ヶ月に一回開催され、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や改善課題の話し合いをして、地域の理解と支援を得る機会にすることを望みます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見・苦情など丁寧に対処している。家族会で共益費の改定などについて話し合ってもらい平成20年1月から改定されるなど、家族の意見が運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の近隣の方々との交流はみられるが、地域住民の一員として自治会に加入され地域活動や人々との関わりを積極的に取り組んでいくことを望みます。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すきな時にすきな事を。したい事・したくない事を理解した上でお手伝いを。地域の方々と気軽に交流できる環境づくりをするという独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に、理念の唱和を行い、日常の介護の中で意識しながら実践している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、近隣の方々から気軽に声かけしてもらい、野菜など届けていただいたりと交流は出来ている。		自治会に加入され、回覧板等で地域の行事の情報収集に努め、行事への積極的参加を期待したい。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のミーティングで自己評価・外部評価について、話し合っている。外部評価の改善について継続されていない。		外部評価については、改善シート等を利用され継続して取り組んでいくことを望みます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に一回開催し、事業所の報告・認知症の勉強会にとどまっている。		2ヶ月に一回の開催を計画し、幅広い立場の人が参加する会議とし、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や改善課題の話し合いをして、地域の理解と支援を得る機会にすること期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出向いて、市の担当者に、報告・相談はよくしているが、事業所に来てもらう機会づくりはしていない。		事業所の行事の中に、市町村の担当者の参加を頂き、一緒に質の向上に取り組むことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会時、面会時に利用者の暮らしぶりの報告をしている。遠方の家族には、ホームだよりで担当者が報告している。金銭出納簿に、家族のサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年一年間で3回の家族会を開催して家族からの意見・相談を聞き、共益費の改定など運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来職員の離職は少なく固定化している。新入職員に対しては、職員が仕事に慣れるまで十分に研修時間をかけ利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域で開催される勉強会に、職員をできるだけ参加させている。内部研修の計画はないが、ミーティング時に研修も取り入れている。		職員全員が外部研修を共有できる工夫を望みます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区の4つのグループホームの管理者の交流がある。職員の交流を提案しているところである。		職員が勉強会・相互訪問など活動を通じての交流を持ち、サービスの質の向上に取り組むことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者本人と家族が見学に来て、他の入居者と数時間過ごしてもらい納得してもらって入居するようにしている。徐々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	野菜作り・料理作りなど得意分野を利用者より学んだり、洗濯物たたみ、掃除など一緒に支えあう関係を築いている。全盲の方に対して、利用者の方々も手を差し伸べて共に生活しているのが伺える。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者の友人宅への訪問・墓参りなど希望に添えるよう努めている。外出傾向にある方も自由に散歩できるよう職員は見守っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	職員で、毎月のミーティングで課題・ケアについて話し合い、往診時に主治医の意見をいただき、介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	6ヶ月に一回介護計画の見直しを行い、変化があればすぐに現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ早期退院を行い、往診をしてもらっている。家族の希望があれば、職員が病院受診に付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々のかかりつけ医に受診している。同意書を作り、家族の希望があれば職員が病院受診に付き添っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに看取りを4人行っている。訪問看護と連携し、医師との話し合いもなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、損ねるような声かけはせず、尿失禁時などは小さな声で声かけて職員間ではアイコンタクトをとっている。個人情報の勉強会をして各居室の名札をはずしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・散歩の希望があれば同行している。喫煙・晩酌・朝寝坊など本人が望む過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は、希望者にパン食・コーヒーを出している。買い物・調理・後片付けなど利用者の力を活かしながら職員は支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように支援している。二人で入浴したりして入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敬老会・市民祭・お花見など楽しみごとの場面作り、行事などの司会・詩吟・刺し子・編み物など力を活かした場面作りをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	墓参り・買い物の希望があれば同行している。おやつを持ってドライブやお弁当を作って花見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向にある人を把握しているので一人で外に出たときは、後から付いて行き見守り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を前提にした訓練は年2回計画し実行している。地震・風水害を前提にした訓練はしていない。		年二回の訓練だけでなく、地震・風水害を前提とした自主訓練をして、職員が自信を持って避難誘導できるよう期待します。また、地域の人々の協力を得られるような働きかけと非常食・飲料水等の備蓄を準備されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量の把握に努め、足りない方への水分確保に気をつけている。利用者の状態にあわせて刻み食を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはコタツが置いてあり、ソファに腰掛けて足をコタツの中に入れゆったりとテレビを観たり、おしゃべりをして過ごされている。壁には着物を掛けて昔懐かしい雰囲気を出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具・小物を持ちこんで、それぞれ個性のある部屋になっている。		